

令和3年10月18日（月曜日）

リダンダンシーの重要性強調

宮崎市で9月中旬に発生した大規模な地滑り現場を視察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙の取材に応じた。大量の土砂流入で宮崎、日南両市を結ぶ国道220号とJＲ日南線が寸断した。足立氏は現場の内

足立参院議員

陸側で整備中の東九州自動車道が迂回（うかい）ルートになり得たことを念頭に、「高規格幹線道路の早期整備がリダンダンシー（冗長性）確保の観点でも必要だ」と強調した。

現場一帯は9月13～16日に総雨量約830ミリの局地的豪雨に

宮崎市の地滑り現場を視察



地滑り被害の復旧現場（6日撮影、足立敏之事務所提供）

見舞われた。雨にもろく崩れやすい地質も影響し、高さ70メートル延長100メートルの大規模な地滑りが発生。崩落した土砂に地滑り

頂上部の湧き水が流れ込み、腰まで埋まるほどの泥土が復旧の障害になった。宮崎市の龍南建設と岡崎組が24時間体制で土砂撤去などの応急復旧工事に対応。10月下旬までの片側交互通行での交通開放に向け懸命な作業が続く。

足立氏は現場視察後、宮崎市の戸敷正市長らと意見交換。迂回ルートが遠回りでも渋滞も発生し物流などに支障をきたしているため、戸敷市長は早期復旧を要望したという。

東九州道の未完成区間は1～2年後にも開通する見通し。足立氏は開通すれば迂回ルートとして使い勝手が良くなると指摘した上で、災害発生も考慮した道路ネットワーク形成の重要性を訴えた。